

これからの地方自治を創る実務情報誌

月刊

ガバナンス

2018
11
No.211 November

1999年6月16日第3種郵便物認可
2018年11月1日発行(毎月1回1日発行) 通巻235号

特集

「現場」起点の自治



スキルアップ特集

職場のパワハラにNO!

平成につぼんの首長

山田恭輔

佐賀県江北町長

自治・地域再興

松下啓一

相模女子大学
エグゼクティブアドバイザー

ともに未来へ
125th anniversary ぎょうせい

Governance

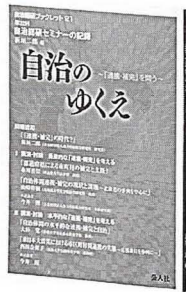
垂直的・水平的な「連携・補完」を考える

その後に、「I垂直的な『連携・補完』を考える」をテーマに市川喜崇・同志社大学教授等による講演・討論、また「II水平的な『連携・補完』を考える」として、大杉寛・首都大学東京教授等による講演・討論が収録されている。

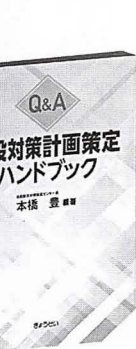
本書は、「自治のゆくえ」『連携・補完』を問う〜」をテーマとした、(公財)地方自治総合研究所主催の第32回自治総研セミナーの記録だ。

まず同研究所研究員の新垣二郎氏が以下の問題を提起。▽自治体はなぜ、誰と「連携・補完」するのか、▽自治体間の「連携・補完」はどのように推移してきたか、▽連携・補完論の新たなステージなど。

自治総研ブックレット21
第32回自治総研セミナーの記録
自治のゆくえ
「連携・補完」を問う
新垣二郎・編
公人社/1500円+税
☎03・3947・5079



自治体の自殺対策計画策定に役立つ実践的手引書!



新しい日本の自殺対策とは何か、学校や企業、病院、家庭等と自治体が連携して何をすればよいかなどを、Q&Aで具体的に解説している。編著者は、国や地域の自殺対策に取り組んできた実績ある日本の自殺予防の第一人者。教育、医療・保健衛生、法曹関係者などにも必備の書である。

2016年の改正自殺対策基本法を受けて、昨年7月に「自殺総合対策大綱」が5年ぶりに見直された。そして、同年末に「地域自殺対策計画策定ガイドライン」が発表された。

本ガイドラインを踏まえ、全市町村は18年度末を努力目標に、地域と連携した計画を策定しなければならず、本書は、それを補完する手引書だ。

Q&A
自殺対策計画策定
ハンドブック
本橋 豊・編著
ぎょうせい/3000円+税
☎0120・9553・431

統計で読み解く知られざる日本の「食」の今

日本の「食」に関する豊富なデータを提示し、わかりやすく解説する。

食生活の劣化は進行し続ける。食料が身近にたくさんあるのに、食べているものは海外のものだ。しかも、食べても安心かどうかわからない。ほとんどの食料を輸入に頼っているのは先進国で日本だけだ。農業従事者は高齢化が進み、農産物生産の将来が危ぶまれている。私たちの健康と未来のために、そうした現状を多くの人に知ってもらいたいと生まれたのが本書だ。

食事の栄養バランスが悪いせいで健康を害する人が増加し、食品添加物や農薬汚染の問題も深刻になっている。グローバル化によって、安価な食料が輸入されるようになった一方で、

食にまつわる
55の不都合な真実
金丸弘美・著
ディスカヴァー・トゥエンティワン
/1000円+税
☎03・3237・8321



「立つ」「歩く」「坐る」「寝る」の新常識がわかる!



本書は、自身もリハビリ体験を持つ著者が、各分野を代表する専門家にインタビュー。ロコモ予防に関する最新の知見、「立つ」「歩く」「坐る」「寝る」の新常識をまとめた。ロコモにならない姿勢や歩き方、坐り方をはじめ、100歳になっても自分の足で歩くための筋肉の鍛え方、椅子や枕の正しい選び方など、役立つ知識を紹介する。

世界でも類を見ないような超高齢社会となった日本。昔から「老いは脚から」と言われるように、加齢による衰えはまず脚や腰に出る。転倒、骨折、そして寝たきりという最悪のコースを辿らないためにも、「ロコモティブシンドローム(運動器症候群)」予防は、「人生100年時代」の喫緊の課題だ。

寝たきりにならない方法教えます
人生100年、
自分の足で歩く
かじやますみこ・著
プレジデント社/13000円+税
☎03・3237・3731